

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念を掲示し、朝礼で唱和し職員間で共有し、実践に結び付けている。	法人理念、ホーム独自理念については玄関とホール内に掲示し来訪者の目に触れるようにし、1日に1回は唱和し共有と実践に繋げている。家族に対しては理念に沿った支援について説明している。職員は理念の持つ意味を良く理解し利用者の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、面会・外出制限中の為実施が出来ていない事もあるが、地域住民と会えば挨拶や立ち話等日常的に交流している。	開設以来区費を納め地域の一員として活動している。区長より行事の都度案内を頂き、新年会、清掃活動等、参加出来る行事については積極的に参加している。合わせて地区内に居住する職員もいることから地域の情報も入り、住民の皆様とも親しく交流し、併設デイサービスと合同で行う夏祭りの際には多数の皆さんが来訪され出店等を楽しまれている。また、地域ボランティアの来訪も定期的にあり利用者で交流していたが現在は新型コロナの影響を受け全ての活動が行えない状況が続き残念である。収束後には、積極的に再開する予定を立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防の為、面会・外出制限中の為実施が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、面会・外出制限中の為資料を2カ月に1度各自・市役所に郵送している。	通常時には家族代表、区長、組総代、民生委員、市高齢支援課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催し、利用状況報告、事故報告、行事報告、職員研修の報告、その他意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。現在は新型コロナの影響を受け書面での開催となり会議事次第と資料、ご意見を頂く用紙を返信用封筒とともに同封し運営についての助言を頂くよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や各ケアマネジャー・ソーシャルワーカーとの関係性を密にし、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市高齢支援課には成年後見人制度やコロナワクチン接種状況等必要事項について相談するとともに助言を頂いている。市の介護相談員の来訪も現在は中止の状態が続いているがコロナ収束後には再開する予定である。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応し行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員、危険防止委員が中心となり研修会を開き理解を深めている。身体拘束についての研修会は年4回実施し、利用者の安全を確保しながら身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。外出傾向の強い利用者はいないが安全確保のため玄関は施錠されている。職員は必ずホールに1名は在籍するよう心掛け、きめ細かな所在確認に繋げている。また、センサー類の使用もゼロの状況が続いている。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を行い身体拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待について勉強会を実施し、職員全員が虐待について理解を深めている。また接遇についても注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名が申請中である為権利擁護の研修等を行いながら理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がケアマネジャーや家族と連絡を取りながら情報収集をしている。又入居が決まった際には契約内容・利用料金・起こりうるリスクをきちんと説明し同意の上署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際、日頃の様子について状況を伝えたり、意見要望を言って頂けるよう日頃から関係性を大切にしている。	利用者の思いは家族からお聞きした過去からの情報や朝、昼、晩の挨拶時等の表情や仕草から思いを受け止めるようにしている。家族との面会は新型コロナの影響を受け自粛状態が続いているが事前に連絡を頂き玄関先で距離を置いて15分位の面会を行っている。利用者のホームでの様子は毎月発行されるお便り「こうしゃ敬老園グループホーム新聞」でお知らせし、特記事項「コロナワクチンの接種状況」等については管理者より手書きの手紙にてお知らせしている。毎年春の「花見」と秋の「敬老会」として2回開いている家族会がコロナの影響を受け中止となっているが収束後には再開する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案を聞き入れられるように心掛けている。些細な事でも聞き流さないように業務連絡ノートや利用者ノートを活用している。	毎月月初めの月曜日に職員会議を開催し、法人からの連絡事項、各委員会からの報告、各種研修会、意見交換等を行い業務の向上に繋げている。全員が出席することが難しいため全員に伝えたいことは書類にして連絡している。人事考課制度があり、年2回、目標管理シートを用い自己評価を行い、管理者による個人面談も行われスキルアップに繋げている。また、年2回、職員一人ひとりのストレスチェックも行われ職員の心身の健康管理に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体での職員管理(人事考課制度)し、働きやすい環境作りに努めている。又個々の体調や精神状態の把握等を行いながらより良い環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの力量を把握し、各部署での研修(コロナ感染予防の為)に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為、未実施。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者及び職員が本人・家族に対し生活状況、心身の状況、不安な事・要望等を伺い、安心して過ごせるよう関係づくりに努めながら、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面談でご家族の苦労やこれまでの経過等を伺い、不安な事、希望、思いをお聞きし良い関係性を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談を通して必要なサービスを提供していき状況に応じて他のサービスも提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を把握し、生活の中で役割を持てるよう支援し、共に過ごしながら支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻回に家族と連絡を取り合いながら、本人と共に過ごし支え合う信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みにしていた物を施設で使用している。家族(1名)との面会では短時間だが感染予防に努め関係の維持が出来るようにしている。またオンライン面会も取り入れている。	平常時であれば友人、知人、併設のデイサービスの利用者の来訪があるが、現在は新型コロナの影響を受け自粛状態が続いている。収束後には再開予定である。そのような中、年末には職員が手助けをして手作り年賀状を作成して家族に郵送し喜ばれている。また、利用者一人ひとりの欲しい物はかかりつけ医の受診時に家族にお願いし買い求めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を観察し、お互いが助け合いながら生活が出来るよう支援をしている。又職員は一人一人が孤立をしないよう環境に配慮しながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も家族と連絡を取り相談や支援に応じる姿勢を示しながら経過を見守り、必要に応じて情報を詳しく伝えその人らしい暮らしの継続性に配慮するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者がその人らしく暮らせるよう、その人の思いや希望を把握し、把握が困難な場合には職員間で本人の思い、視点に立って意見を出し合い、話し合いをもち検討している。	家族から聞いている希望も参考に、一日の生活の中で「運動か外に出たいのか、何をしたいのか」本人の希望等を聞き意向を尊重し出来ることをやっていたり進めている。役割として「縫い物」や「洗濯物たたみ」に参加したり、外に散歩に出掛けた際に自動販売機で好きな飲み物を選んでいただくなど意向に沿えるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりの日々の気づいた言動等はケア記録に纏め、職員同士で確認しあい日々の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーに情報を頂き、入居後も在宅での暮らしの延長となるよう情報収集に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る力、分かる力、役割を持ちその人らしく暮らせるよう、又心身状態の安定が保てるように一日の過ごし方を職員間でチームとして連携、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、それぞれの利用者の方の能力や趣味等を把握し、ここに好きな事が出来るよう支援に努めている。	職員は1~2名の利用者を担当し日々のモニタリングに合わせ6ヶ月間の達成状況を纏め、家族からお聞きした希望なども反映しカンファレンスの席上で話し合いケアマネジャーがプラン作成を行っている。入居時は3~6ヶ月のプランを作成し様子を見てその後1年間のプランを立て、状況の変化や介護度の変更時には随時の見直しを行い利用者一人ひとりに合った支援に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話、実践、結果、気づきを個別記録に記入し、より良いケアに向け情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況、ニーズに対して柔軟な心を持って、支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしが楽しめるように、民生委員やボランティア、理美容院、掛かり付け医への受診などを把握し、地域の人達との交流等の取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診していたかかりつけ医への受診を継続、本人に合った医療が受けられる様に支援している。	現在は全利用者が入居前からのかかりつけ医を継続しており、現在はコロナ禍でもあり1~3ヶ月に1回の受診に家族が同行している。また、毎週水曜日には契約の訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理に当たっている。合わせて併設デイサービスには常勤看護師がおり、緊急時の対応や日々の健康管理の相談に乗っていただいている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化を観察し、訪問看護の定期的な訪問、医療関係者との連携に努めながら早期対応し、ご利用者が適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院する際はご家族と良く相談し、医療機関に情報提供している。又、短期間での入院になるよう、病院関係者、ご家族と話し合いスムーズに退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援については、ご家族の意向を確認しながら掛かり付け医との対応方針を共有し職員間での話し合いを持ちながらチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針があり利用契約時に説明している。終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの機会を持ち家族の希望を確認しホームとして出来る支援に取り組み、協力医療機関の療養型病棟や広域の特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時の備えマニュアルを用意し慌てず落ち着いて初期対応や応急手当が行なえる様、定期的に訓練、話し合いをもっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。又災害時の発生に備え、備蓄品の準備もしている。	3月と9月の2回、併設デイサービスと合同で防災訓練を行っている。消火訓練、通報訓練、利用者全員外へ移動しての避難訓練等を行っている。また、地域との防災協定も結ばれており今年10月に消防署参加で水害想定での防災訓練を行う予定である。水消火器を使つての消火訓練、消防署への通報訓練、利用者全員参加の避難訓練、携帯電話を使つての緊急連絡網の確認訓練も行う予定である。備蓄として「水」「レトルト食品」「ガスコンロ」等が準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々を尊重し、言葉かけには注意している。特に、排泄介助・入浴の際は不快な思いをされないように注意している。	言葉遣いには気配りをし、親しき中にも馴れ合いにならないよう心掛けている。排泄介助は他の人に見えないよう気を配り、入浴は一人ずつゆっくり入っていただくようにしている。入室の際には目的を伝え声掛けを行うようにしている。呼び掛けは苗字を「さん」付けでお呼びしている。年1回プライバシー保護に関する勉強会を行い、気持ち良く生活していただくよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の関わりを通し、信頼関係を築く事に努め本人が自己決定しやすい声掛けや雰囲気作りに心掛けている。また表現が出来ない方は表情や仕草から思いがくみ取れるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちや体調を見ながら無理強やさせず出来る事をその人のペースで行えるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日が気持ちよく過ごせるよう、本人の希望に添った形で身だしなみの声掛けや介助を行っている。散髪は希望があれば理容師に訪問してもらい散髪を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使った料理や手作りのおやつ作り、イベント食等を取り入れながら食事を楽しむ事が出来るよう支援している。	自力摂取できる方が大半で、一部介助の方が若干名という状況である。食事前には全員で体操を行い職員もテーブルに付き食事の時間を過ごしている。献立は法人の栄養士が立てたものを一部アレンジし調理している。おやつレクリエーションを出来るだけ多く行い、「どら焼き」「にら煎餅」「ホットケーキ」等のおやつ作りに多くの参加をいただき、楽しみながらやっていただいている。コロナ収束後には「寿司」「ラーメン」等の外食に出かける予定でいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べれる量を提供している。食事メニューは管理栄養士が作成し管理されている。みそ汁の塩分にも注意している。個々の食事形態に合わせている。食事量、水分量を毎食時記録し共有が出来るようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。個々のレベルに合わせ声掛け見守り、必要な方には介助にて実施できるように努めている。又異常が見られた際には家族・本人と相談し歯科往診が出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の減少や少しでも不快感を少なく出来る様、一人一人の排泄パターンを把握しトイレの声掛けや誘導・パット交換を行っている。	自立の方が三分の一、一部介助の方が半数弱、全介助の方が若干名という状況である。夜間のみポータブルトイレ使用の方が半数弱いる。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、本人の意思表示に合わせトイレにお連れし排泄に繋げている。排便促進を図るため「お茶」「スポーツドリンク」等を中心に水分摂取にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の過ごし方や軽体操・運動を促す様にしている。また排泄チェック表を活用し排便の有無、下剤内服の有無の記録を行い職員で共有出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定は1週間単位で立てているが、個々の希望や体調に合わせて設定日以外でも入浴が出来るようにしている。	入浴時、一部介助を必要とする方が大半で、全介助の方が若干名という状況である。基本的には週2回の入浴を行い、そのうち1回は山ノ内温泉より「温泉」を運び天然温泉を楽しんでいる。入浴拒否の方はおらず、希望により週3回入浴される方もいる。また、「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のに合わせた休息の時間を作っている。又居室の温度管理等にも配慮し、気持ちよく休息が取れる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容に変更があった場合には、職員間でしっかりと情報の共有が出来るようにしている。又日常生活での変化等の観察を行い、医師や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々能力に応じ、洗濯物を干したり畳んだり等役割を持ち継続して出来る様支援している。又希望献立や誕生日会・季節の行事等楽しみが持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為外出は控えているが、個別に外に散歩に出たり畑の作物を収穫したりしている。	外出時、杖使用の方が若干名、一部介助の方が三分の一、車いす使用の方が半数強という状況である。日常的に天気の良い日には周りを散歩したり玄関前で外気浴を楽しんでいる。今年度も行事予定を立てて外出する予定だったがコロナの影響を受け全て中止の状態になり残念な状況である。収束後にはまた計画を立て、春の花見、6月のバラ園見学、秋の紅葉見物等積極的に出掛ける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に添い、家族の了承を得て現金を所持されている方もいる。現金を使用する際には必ず家族への確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より要望があれば、電話・手紙を書ける環境を作り投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り廊下の壁に毎月季節がわかる飾りを利用者と一緒で作成し飾っている。居心地よく過ごせるように目で楽しめる様な環境作りに取り組んでいる。	高社山をバックに開放感漂う広々としたスペースの中に併設のデイサービスと共に当ホームの建物が立っている。玄関を入りホールに入ると職員が横に付き添い、好きなことに取り組み寛いでいる利用者の姿が見れた。ホーム内南側、小上がりの畳スペースの窓からは北信5岳の山々を見ることが出来、季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席への配慮をし、楽しく会話ができるようにしている。又、座る場所は利用者と相談しながら変更している。畳スペースにて日向ぼっこをしたり長座布団で横になったりと出来る様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には在宅で使用していた物や箸・茶碗を持って来て使用したり、遺影を置いたりしている方もいる。本人が心地よく安心して過ごせるようにしている。	洗面台と大きなクローゼットが備え付けられた居室は整理整頓が行き届き、清潔感が漂う中で利用者が生活している。また、各居室の入り口ドアの色を変え利用者が間違えないよう工夫が施されている。持ち込みは家族と相談し、衣装ケース、ハンガーラック、テレビ等でレイアウトし、職員から贈られた誕生日のお祝いカード等も飾られており自由な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に於いては安全・安心に生活が送れるよう、一人一人に合った配置、自立した生活が送れるように工夫している。又居室入り口は表札があり、ドアの色も全て色違いになっている。		